

ほおづえ

第8号

目次

- 1 巻頭あいさつ
- 2 本部だより・関東支部だより
- 3 北陸支部だより
- 4 会員近況
- 5 学内NEWS
- 8 ほおづえ会からのお知らせ

ほおづえは縦と横の絆、ほおづえ会は絆の会

副会長 吉田 康弘 (2期)

ほおづえ会の会員の皆さん、お元気ですか？頑張っていますか？

建設不況の最中に在って、誰しもが懸命の努力をしていることと思います。

最近の建設業界を客観的な表現で手厳しく論評する週刊誌の特集が出ると必ずと言っていいほどに買っていますが、嬉しくなるような事はまったく記載されていません。たとえば、

「建設業界の淘汰は平成12年後半から始まる！」

「これから30年間は大きな下り坂、財政赤字、企業年金の赤字、企業の隠している赤字、企業倒産続出」

「借金の過剰、設備の過剰、雇用の過剰、」

等々きりがありません。つらい文字が続く中に、これは困ったことだと思ったのが、「進学も就職もしない若者たち」というタイトルの記事でした。高校を卒業しても進学もしないし就職もしないでブラブラしているフリーターが増えている、その数は高校を卒業する者の約1割(13万人)に達すると言う話でありました。希望する大学、希望する就職先がない、進学しても勉強したい学問がない、景気が悪いのでしばらくは遊んでいるしかない等の理由が解説されていました。これでいいはずはないが、これが現実である。

この現象の背景には、非常に多くの問題と過酷な現実が存在し、尚且つ困難な未来を暗示している。このことの解決に必要な課題は多いが、石川高専の学生たちには力強く社会に羽ばたいてもらいたいと思っています。そしてほおづえ会の皆さんには、彼らを上手に支えてやっていただきたいと思っています。

さあ、頑張りましょう！

本部だより

平成11年8月13日午後7時より『ほおづえ会平成11年度役員会』を14名出席にて行い、以下の議案について承認されました。

平成10年度決算報告 98/8/1～99/7/31

<収入の部>

会費（正会員）(3,000×292)	876,000
会費（準会員）(1,000×204)	204,000
預り金（次年度分前払い会費）	15,000
預金利息	786
前年度繰越金	772,269
合計	1,868,055

<支出の部>

総会・役員会費	58,743
印刷費（名簿、広報2回）	689,850
通信費（総会案内、広報、アンケート等）	208,060
慶弔費	0
事業費（学校への援助等）	120,000
支部支援費（関東・北陸）	300,000
事務費	53,606
積立金	0
預り金（次年度分前払い会費）	15,000
次年度繰越金	422,796
合計	1,868,055

<資産>

北國銀行定期預金	200,000
----------	---------

[監査報告]

監査の結果、上記収支決算は適正に収録され、間違いなく支障を認めません。

平成11年9月10日

監査 寺嶋 清人(2期)

関東支部だより

平成10年度決算報告 98/8/1～99/7/31

<収入の部>

前年度繰越金	109,854
銀行利息	106
支部支援費	111,840
合計	221,800

<支出の部>

交通費（本部総会出席）	11,840
次年度繰越金	209,960
合計	221,800

[監査報告]

監査の結果、上記収支決算は適正に収録され、間違いなく支障を認めません。

平成11年9月2日

監査 前山 秀穂(3期)

北陸支部だより

平成10年度決算報告 98/8/1～99/7/31

＜収入の部＞

前年度繰越金	145,890
寄付金（前期運営委員より）	2,730
支部支援費	200,000
事業収入（見学会152,000、バーベキュー48,000）	200,000
貯金利息	9
合計	548,629

＜支出の部＞

会議費（委員会施設使用料）	18,480
通信費（郵便・電話料）	81,340
事務費（コピー代）	16,630
事業費（見学会152,399、バーベキュー114,670）	267,069
次年度繰越金	165,110
合計	548,629

〔監査報告〕

監査の結果、上記収支決算は適正に収録され、間違いなく支障を認めません。

平成11年9月10日

監査 谷保 学(3期)

恒例バーベキュー大会

さる7月18日、北陸支部恒例となったバーベキュー大会が、今回は小矢部市の「クロスランド小矢部」にて36名参加（会員19名会員家族17名）で行われました。

あいにくの雨模様によって当初予定されていたアトラクションの一つ「パットゴルフ大会」は中止となり、変わって急遽「クロスランドタワー非常階段段数当てクイズ」が行われました。（これは実際の段数と、任意抽出の数字を合計したものを当てるというものです。）結果は、地元の強みからか、徒歩で参加できるくらいの近所である野手有二さん(1期)が優勝し、見事豪華(?)景品をゲットしました。

その後も、これは恒例のビンゴ大会などのアトラクションを行っているうちに天候も次第に回復し、中盤以降は青空も顔をのぞかせ、終始なごやかなうちに今回も無事終了しました。

これだけ回数も重ねてきますと、役員の段取りももうさまになったもので、材料や小物等も予算内でバラエティーに富んだものを用意できるようになってきたと感じます。また参加者の方々ももう大分顔なじみで、今年もまたなじみの面々に会えるという感じの会になってきたと実感します。とは言え、新しい顔ぶれの方々も来年からはドシドシ参加してもらえたらな、と思っておりますのでヨロシクお願いします。



皆さんは、建築家ヘルマン・ヘルツベルハーをご存知ですか？

—中嶋 悟(10期)—

10期の中嶋 悟です。早いもので設計業務を希望しながら“鴻池組(このいけぐみ)”と言う準大手のゼネコンに入社して16年現場施工管理をしています。

話しは今から2年前の春、立山町の雄山中学校の工事を終えほっとしていた頃、黒部市に「YKK黒部寮」を建てることになり設計はオランダの建築家ヘルマン・ヘルツベルハー(略称:H・H)氏でした。皆さんはH・Hをご存知でしょうか？恥ずかしながら私は知りませんでした。はじめてH・Hの名を聞いた頃はこれは“大変な先生かな”と思ったりもしてましたが実際に施工してみて本来建築はこう有るべきなんだなと思わせるシンプルかつ計算された設計手法の持ち主でした。そこで皆さんの今後の業務の参考になればと思いH・H氏のコンセプトの一部を紹介します。(引文:小澤丈夫氏(H・H事務所))

「開放性」…連続した領域の連鎖の中で各々の異なった領域のエッジをはっきりと見せること又領域やものごとの関係をヴェールで隠さずはっきりと見せること。YKK黒部寮ではレストランなどのパブリックスペース、寮室へのアプローチするためのブリッジ、外部テラスや池、敷地外の風景などがそれぞれの領域をはっきりさせながらも連続的に重なり合っ見える様子はこの「開放性」のコンセプトによって導きだされたものです。

「光と陰」…これの扱い方は、単に抽象的な美しさを求めることを目的とするのではなくそれが建物の全体コンセプトの中でどのような役割を果たしているのかをはっきりさせることが重要です。YKK黒部寮では、6つの寮ブロックを橋子のブリッジで繋ぐ事により約100mの直線廊下は、光と陰が交互に入れ替わる連続した空間となっていますがそれは全体の分節された構成を強調する効果を生み出しています。これは寮の廊下をホテルの廊下のような無個性な空間ではなく都市の街路のように変化に富んだ空間にするのに重要でした。

「材料・素材」…コンクリートの壁面が大きくなったときに圧迫感を与えないような表情が必要だと“ドット模様”(湧水マットを型枠として使用)のコンクリート(H・H事務所オリジナル)を打設しローラーで表面の平滑面だけを着色することによって壁面全体が2色のレイヤーを持った織物のように見える。又無意味にSUSなど高価な材料を使わない。外部はメタルにメッキ・アルミ、内部はメタルにペンキ・プラスターボードにペンキなど。

最後に工事が終わりに近づいた頃 H・H 事務所の小澤氏が H・H の基本的な考え方として言われた言葉で、クライアント・設計者・施工業者の3者が共に(品質・金銭的に)笑って仕事を終わるのが良い設計であって、ある予算内で施工業者が泣く(赤字になる)ような設計はよい設計とは言えない。と言われたのが印象的でした。

H・Hのエスキースやスケッチ・図面、他の作品の写真などを YKK 黒部寮のIFラウンジに展示してあります。興味の有る方は、YKK又はYKKapでアポイントを取って見学に行ってください。現在使っている寮なのでアポ無しでは内部は見せてくれませんよ。

Herman Hertzberger

- 1932 年 オランダ・アムステルダム生まれ
- 1958 年 デルフト工科大学卒業、アムステルダムに自らの設計事務所を設立
- 1959-63 年 「FORUM」誌 編集に携わる
- 1965-69 年 アムステルダム建築アカデミー講師
- 1970 年 デルフト工科大学教授
- 1986-95 年 ジュネーブ大学教授
- 1990-95 年 ベルラーヘ・インスティテュート・アムステルダム・チェアマン
- 1991 年 R I B A 特別名誉会員

1. ワークショップ形式の授業の試み

卒業生にとって、高専の授業で思い出すことは何でしょうか？最近行われた、ワークショップ形式による授業の試みと、それを体験した学生の感想をご紹介します。

<概要>

このワークショップは谷重先生によって提案された企画課題で、今年度前期に2・3年生の「建築設計」の授業で実施されたものであり、共同制作と実物制作を主な目的として行われました。具体的には、2年生と3年生で合計10人前後の8つの班を構成し、8人の先生が1班ずつ担当して行われました。

<テーマ:I-Place>

I-Placeとは、私の場所というような意味です。日頃、我々が学内で過ごす時、物思いに耽ったり、自然や人々の光景を静かに眺めたり、まわりの音に耳を傾けたり、そのような場所を見つけ出すことはなかなかむずかしいものです。

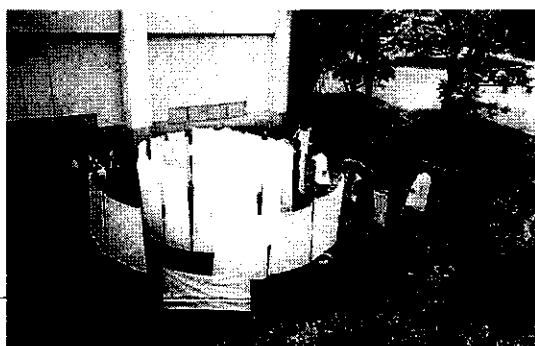
それはキャンパスが公的なスペースとして性格付けられていることにより、自ずと私的空間に注意が払われていないからでしょう。すべてが公的に均質化することは、すべてが私的に変わりえて、差異が希薄になる傾向にあります。あらゆるところで携帯電話で話し始める姿からも、その傾向が想像できます。

私の居場所、私の時間を過ごす場所の提案を通して、均質になりがちなキャンパスに空間の差異を与える動機となることを期待しています。

単に囲われたスペースをつくるのではなく、私がどのような姿で、どのような行為をして、どのような心持ちでそこに居るかを、具体的に思い描いてください。

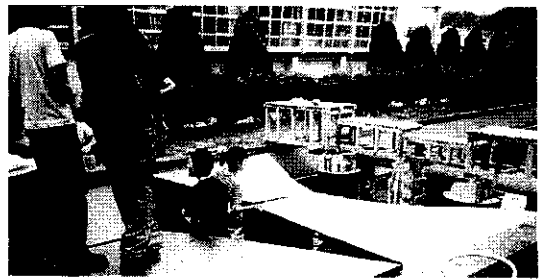
計画に適した場所を選び、そこで思い描かれる場面(scene)を、具体的な建築材料を使って形態化してください。

(※実際に提示された課題を原文のまま掲載)

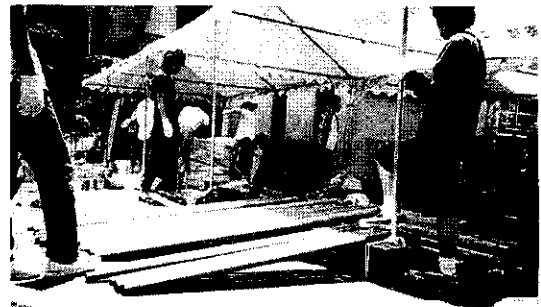


<学生の感想(3年生)>

- ・8個の作品は全て「I place」という気がしなかった。でも仕方がないと思った。図面だけの設計よりいいと思った。大変だったけど結構良かった。(山本兼司)
- ・頭の中で考えることよりも肉體労働の方がつらかった。作品が完成した瞬間はとても感動した。(受川安佐子)
- ・今までの個人の設計では味わえなかった、みんなで1つのものをつくることの大変さをあじわったと思う。(庄田亜希子)
- ・頭の中にあるものが形になってゆくことが嬉しかった。費用のやりくりもとても勉強になった。(渡邊美保)
- ・この授業に関しては賛否両論いろいろあるが、私的には成功したんじゃないかと思う。普段は、製図板の上かCADで黙々と作業するのに比べ、実際にボルトをしめたり木を切り出したり良い経験になりました。(前田ゆかり)
- ・沢山の人数で1つの物を造ることで、自分とは違った考え方を取り入れることができたと思う。(四辻千真)
- ・私の班が男子の少ない班だったのでドリルが使えるようになってしまいました。(宮川典子)
- ・物の値段や、工具の使い方などを、体験することで学ぶことができ、よかったと思う。(岩上祐子)
- ・本当に小さな物しか作れなかったけど、作ることの難しさ、コストのことなど、いろいろ勉強になりました。(大黒俊平)
- ・いつも机で勉強してばかりだけどワークショップでは本物の木を触って自分で作れて楽しかった。(南村浩介)



- ・最初はやる気マンマンだったが、作業期間が長すぎて最後にはつかれてしまった。(今本紋)
- ・大変なことも多かったけど、学んだことの方が多かったです。普段と違った経験ができてよかったです。(泉千恵)
- ・女の子ばかりの班で最初はどうなるかと思ったけれど、なんだかんだいって、最後には協力してよい作品ができたと思います。(大角千紘)
- ・毎日ワークショップで残って作業するのは大変だった。でも完成して形になったとき、やってよかったと思った。(小笠原優)
- ・毎日、遅くまで一生懸命していたのに、なかなか出来なくてすごく大変だったけど、出来たときは感動しました。(飯田茉莉子)
- ・ワークショップは、精神的にも体力的にもつらかった。でも得たモノはたくさんあった。(可西亮子)
- ・Work Shopは、今まで材料の事(値段など)など知らなかった事が分かってとても勉強になった。(小西伸治)
- ・体をうごかして材料なども買ってきてやっていたので値段を気にしたり、わからないことがあり、なかなか楽しかった。ただ時間がかかりすぎたと思った。(平木秀和)
- ・ワークショップは思っていた以上に大変だった。でも、いろいろな人と交流がもてて楽しかった。(長井紗織)
- ・今まで、いろいろな課題をしてきたけれど、一番大変でつらい課題だった。でも1人でやる課題より、ずっと楽しかった。(下出真沙美)
- ・ワークショップに取り組んでいる最中は毎日がつらいと思っていたけど、終わってみると充実していた。(余野木明日香)



- ・実際に作品が完成して展示してあった間、いつもと同じ学校なのに、なんだか違う所のような気がしてとても楽しかった。(長田恵津子)
- ・設計段階を越えて、材料を買って作り上げた作品は達成感も大いにあったが、班員との協力の素晴らしさも感じた。(片山茂樹)
- ・体を動かしてやる作業はとても新鮮だった。チームワークの大切さがわかった。(番匠雄士)
- ・今回のワークショップでは、実際に体を動かして、物体をつくるというので、とても新鮮な感じがした。(仲村美里)
- ・期間が短かく、とてもあわただしく終わってしまったけど、とても楽しく勉強できました。(福島由佳)
- ・いつもとは違って班の案だったので、1つにまとめてゆくのがとても大変でした。(杉本智恵)
- ・実際に自分達が考えたものを形に出来てすごく楽しかった。完成したときは本当に感激した。(幸正奈津子)
- ・1つのものを協力し合ってやっているのは、楽しかったけど大変だった。(藤島鋭悟)
- ・自分達で一生懸命考えたものが実際に立体となってあらわれたときは、とてもうれしかった。(橋場香菜子)
- ・今までの課題と違って、忙しくて大変だったけど、完成した時は感動しました。(森史子)
- ・これまでの課題とは違い、みんなで協力してできた。けっこう大変だったけど楽しかった。良い経験になりました。(小森睦巳)
- ・重い鉄板を持ちたり、加工したりして大変だった。毎日忙しかったけど完成した時うれしかった。(吉川陽子)
- ・毎日、毎日夢の中までワークショップでいっぱいだった。衝突もあったけど、いい経験になった。(竹田加奈恵)
- ・自分達で、予算や材料を考えながらでき、勉強になった。とてもおもしろかった。(川岸昇)
- ・ワークショップでは6mの丸太を建て、大変だったけど、「できた」という満足感は大きかった。(入江慎太郎)
- ・限られた予算の中で、自分たちがほしい材料をさがすことが難しかったけど、いろいろな材料の値段を知ることができた。(上田恭子)
- ・いつもの図面を書いているだけでなく、建てるというむずかしさが分かった。(前田圭一)
- ・私はお金の問題や材料の調達の大変さなど、やってみないと分からなかった、という事だらけでした。(小坂真美)
- ・考えるだけでなく“造る”という作業はとても大変だと思いました。(宮下美和)

2. 第23回四高専建築シンポジウムにおける設計競技について

今年で23回をむかえる四高専建築シンポジウムの特別企画である、公開設計競技最終審査会(テーマ「地方商店街活性化の契機となる施設」)における石川高専勢の成績を報告します。

最優秀賞 松森一行 5年 国立明石工業高等専門学校
2等 中川紗織 4年 国立石川工業高等専門学校
3等 高橋 援 5年 国立明石工業高等専門学校
佳作 大学美沙 4年 //

佳作 沢田大輔 4年 国立石川工業高等専門学校
佳作 小林健介、山本洋平、木田千尋 5年3名共同作品
国立石川工業高等専門学校

佳作 北野雅士 5年 国立明石工業高等専門学校
佳作 永尾達也 4年 //

※参加8校応募総数107点(内石川高専18点)

また、選外佳作(5作品)の中に・庄田亜希子(3年生)、杉本智恵(3年生)、界幸成(2年生)の共同作品1点が、上位21選の中で、入賞、選外佳作以外の8作品の中に中澤潤(4年生)、前静香(4年生)の2点が選ばれました。審査委員長の伊東豊雄氏も「期待していた以上の作品が数多く集まり、来てよかった。」とコメントするほど

レベルの高い競技会だったようで、その中で我が後輩達の健闘ぶりは非常に喜ばしく、頼もしい限りです。詳しくは <http://www.yonago-k.ac.jp/Archi/HomePage/sympo/index.html> でもご覧いただけます。



3. 専攻科設置

石川高専では平成12年度から専攻科が新設されます。専攻科とは、高専の5年間の教育の上に、さらに2年、高度な専門的知識と技術を教授し、研究指導することを目的に設けられたものであり、平成4年度から全国で実施されていたものを、このたび石川高専でも導入されるものです。

入学資格は高専、短大卒で、専攻科を卒業すれば大学と同じ学士の資格が得られ、大学院への進学も可能となります。

設置されるのは電子機械工学と環境建設工学で、現在既に学生募集中ですが、詳しい内容は建築学科主任金木先生または学生係までお問い合わせ下さるようにとの事です。

何れにせよ、大学3年に編入するだけであった進学の選択肢が、専攻科設置により増えるということは歓迎すべきですね。

4. 学内人事情報

河内先生、博士論文『調和的なこと』の建築的考察』を提出、博士号取得。本年度10月1日より教授に就任。

船戸先生、博士論文『散逸性物体の波動問題における時間領域境界要素法の数値的構成法に関する研究』を提出、本年度12月27日博士号授与予定。

谷重先生、本年度4月1日より講師に就任。

5. 地域共同技術相談室設置

本年度より開設された「地域共同技術相談室」を通じて依頼を受け、河内教官を中心に建築研究部の学生有志3名(稲沢理代(4年)西田幸世(4年)杉本智恵(3年))と内田教官(4月より)が協力して、高橋ふみ(哲学者)の生家復元模型を制作。現在は「七塚町うみっこらんど」にてご覧いただけます。

この活動については次号にて詳しくご紹介できれば、と考えております。

ほおづえ会からのお知らせ

1. 支部情報

- 中部支部：現在、山本進一氏(2期)を中心に支部設立準備が進められています。
今期中に、中部在住会員に支部設立の趣旨説明等を行う予定。
- 関西支部：現在、井口秀栄氏(2期)を中心に支部設立準備が進められています。
関西地区にお住まいの方で、支部設立準備のお手伝いをしていただける人を、募集中です。
連絡先：TEL:06-6831-0564 (井口 秀栄)
- 北陸支部事務局：〒932-0833 富山県小矢部市綾子168 (榑吉田組内)
TEL / FAX:076-492-7463 E-mail:hozuekai@anet.ne.jp
事務局長:富樫 吉規(20期)
- 関東支部事務局：〒105-0013 東京都港区浜松町1-11-6 あずまビル4階 (榑ツヅキ東京支店内)
TEL:03-5470-1941 FAX:03-5470-1946
事務局:宮本 進治(10期)・竹内 伸好(13期)

2. 住所変更の届け出のお願い

前回の名簿発行後、いくつかの記載の間違い・住所の変更等の連絡をいただき、ありがとうございました。住所・勤務先等の変更があった会員は、ご面倒でも下記事務局までご連絡ください。

3. 会費納入のお願い

ほおづえ会は、会員のみなさまの会費によって運営されています。
平成11年度会費の納入にご協力お願いいたします。

4. 原稿募集

会員のみなさまより原稿を募集しております。近況報告・ニュース・ご意見等テーマは、問いません。下記事務局まで、郵送・FAX・E-mailにてお送りください。

5. 事務局移転のお知らせ

これまで事務局を置かせていただいた金沢デザイン建築専門学校が名称変更・校舎移転のため、同窓会事務局も下記住所に移転いたしました。

編集後記

来年は西暦2000年です。明るい話題ばかりなら良いのですが、コンピューターの2000年問題など、どうにも心にひっかかるような事ばかりを耳にしがちです。みなさんの対策はいかがでしょうか？
我らが「ほおづえ会」にもその余波はやってくるのか？というのは神のみぞ知る事でしょうが、世紀末を迎えるにあたり、このような親睦団体にまで災いをもたらさなくても結構ですからね、と天にお願いしつつ第8号をお届けします。
広報委員長：山岸 学(16期)

平成11年12月1日発行

編集／発行 石川工業高等専門学校建築学科同窓会事務局

〒920-0022 石川県金沢市北安江1丁目6番27号 専門学校ESSEテクノカレッジ金沢内

TEL 076-234-3311 FAX 076-234-3432

E-mail:hozue@anet.ne.jp